

城山エコミュージアム通信

令和6年（2024）8月15日 第46号

エコミュージアムとは、エコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）を合わせた造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方のもとに、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。



穴川と里の暮らし

あじさいと螢の里穴川は、境川の支流の冷たく清らかな流れと水田、畑、山が作る里山の風景が広がる地域です。その昔、川の上流に龍が住んでいた穴があったところから穴川と呼ばれるという伝説があり、隣の谷戸を流れる小松川と合流したあと境川にそそいでいます。

この地域では「城北自治会」をはじめ「プチエコじょうほく」「小松・城北里山を守る会」など、アジサイや川の整備、ホタルの保護活動など地域の環境を守る活動に力を注いでいる団体があります。またこの地で耕作される水田では、個人の米作りはもちろん、鶴岡八幡宮と川尻八幡宮に毎年奉納される注連縄（しめなわ）づくり用の稲や相模原市産の酒米の栽培も行われています。



穴川沿いに咲き誇るアジサイ

また、数多くのトンボ類が生息していて春先から晩秋にかけて観察することができます。田口正男氏著作の「トンボの里、アカトンボにみる谷戸の自然」では、穴川の水田を中心にトンボ類を調査した記録を詳しく知ることができます。そのほか、氏はバンジュ谷戸周辺のトンボの調査も行っています。（田畑 房枝）

*バンジュ谷戸

ホタルなどの生き物のために穴川の人々が環境保全に努めている谷戸。城山ふれあい水路。小松城の番所があったので番所谷戸（バンショヤト）の意。

参考文献：『津久井の一隅』（斎藤文平著）



6月に入ると穴川谷戸の中ほどにテントが張られ、ホタルの数を記録したり、案内をして訪れる人々が気持ちよく見学できる環境を整えている。



しめなわ
注連縄耕作田



酒米耕作田



今回のトピック ■特集「穴川と里の暮らし」■城山探訪「雨降の地蔵尊」■しろやまミニ図鑑「サンコウチョウ」■城山検定■活動報告「城山エコミュージアムのつどい」他■インフォメーション「ツアーのお知らせ」



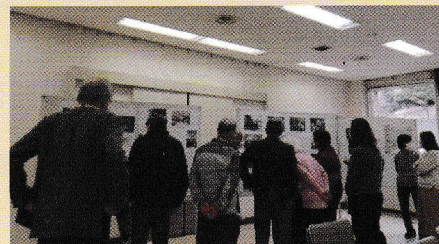
「令和5年度 城山エコミュージアムのつどい」開催

日時 令和6年2月17日（土）13：30～16：00
会場 城山公民館 大会議室

<活動発表>

活動紹介・事例発表

令和5年10月22日に行った城山エコミュージアムツアー、「若葉台ってどんな所？」～知らなかった昔と今～の事例紹介をしました。城山エコミュージアムのツアーとして、初めて若葉台地区を巡った様子を写真や地図などを交えて発表しました。若葉台在住の方から、知らなかったことがたくさんあり面白かったと感想をいただき、「まち（地域）まるごと博物館」というエコミュージアムの醍醐味を味わうことができました。



事例発表のポスターを見る参加者

<講演会>

『らんまん 牧野富太郎とゆかりの植物』

講師：秋山 幸也氏（相模原市立博物館学芸員）

「日本の植物学の父」牧野富太郎博士の功績と城山地域でも見られる牧野博士ゆかりの植物についてご紹介いただきました。昨年のNHK連続テレビ小説『らんまん』の主人公牧野博士の真の人物像から、植物学の学術的な話をお聞きし、東京都立大学牧野標本館と市立博物館で行われた標本交換で、相模原市立博物館で収蔵することになった牧野博士が実際に採集し直筆が残る貴重な標本を拝見することができました。また、牧野博士が相模湖や石老山へ植物採集に来られたことなど、牧野博士の植物への想いに浸る束の間の時間を参加者37名とともに過ごすことができました。

「植物学の原点に触れて興味深かった」「標本の現物を見られてよかった」「久しぶりに脳みそを刺激していただきました」など、参加者から感想をいただきました。

（長久保 梓）



講師：秋山 幸也氏



「城山公民館まつり」 出展

日時：令和6年3/9（土）～3/17（日）

令和5年度に行われた城山エコミュージアムツアー「若葉台ってどんなところ？」や城山もみじ学級ガイド、冬の文化財探訪ガイドなどの活動をポスターにして展示しました。



城山エコミュージアム委員会全体会 開催

日時：令和6年4月3日（水）

令和6年度の年間活動計画が決まりました。新メンバーも加わり、計画実行について話が盛り上がりました。

学習会開催「内裏と仙洞の地名存在の推測」

日時：令和6年5月8日（水）（担当：高橋告郎）

大和朝廷の奥州蝦夷地侵略に伴う渡来人とのつながりを地名（巨摩郡、高座郡など）から推察する興味深い説明がありました。

サンコウチョウ

(スズメ目カササギヒタキ科)

聞きなし(*注)⇒

「月(つき) 日(ひ) 星(ほし) ホイホイホイ！」

5月頃に東南アジア方面から飛来し、平地や低い山の中で子育てをして秋にまた南方に帰る渡り鳥で、この相模原の里山にもやって来る。

くちばしと眼の周りのコバルトブルーの輪が目立ち、オスは長い尾羽が(体の $\approx$ 3倍)が特徴。長い尾は日本を去る頃には抜け落ちると言う。

繁殖期のオスは口笛の様な声で「フィチイ フィチイ ホイホイイ」と鳴き、メスを呼ぶ。地鳴きは「ギイッ」。

さえずりが「月日星ホイホイホイ！」と聞きなされ 月、日、星の3つの光から「三光鳥(サンコウチョウ)」の名がついた。

(*注) 聞きなしとは、鳥やどうぶつの鳴き声を人の言葉や文字に置き換えて覚えやすくしたもの

(塩谷 弘道)



巣にとまるオス(上)と、舞うオス(左)とメス(右)

写真提供: 宮崎さん 2023年6月撮影

参考文献: <野鳥図鑑: 文一出版> <野鳥: 山と溪谷社>



城山探訪

あめふらし

「雨降の地蔵尊」

NatureFactory東京町田(旧大地沢青少年センター)に入る道の左手に手厚く祀られているお地蔵様があります。地蔵尊の後ろに由来が書かれている板、左右には雨降講中の人々の名前があります。

嘉永3年(1850)雨降の当地に安置され、その名を子育て地蔵尊として伝えられています。平成5年城山町教育委員会発行の「城山町講中調査報告書」によると、祭りは春、秋2回、毎年持ち回りの宿の都合の良い日に行われ、毎年8月に地蔵様の着物の着せ替えが行われています。

(田畑 房枝)

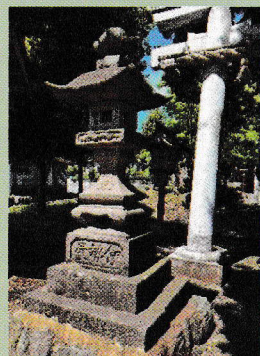


城山検定

問題

この石灯籠はどこにあるでしょう。

- ① 諏訪神社(小倉)
- ② 三嶋神社(中沢)
- ③ 川尻八幡宮



⇒解答は4ページ



【城山エコミュージアムツアーのお知らせ】

穴川の里を訪ねて
～今も残る里山の原風景～

参加者募集！

アジサイとホタル、龍伝説のある穴川の里。谷戸田、ヒガンバナ、森、野鳥・・・

秋風のなか、里山の風景と暮らしを訪ねるツアーです。

日時：令和6年10月27日（日）9:00～12:00（雨天中止）

<行程：城山公民館・・・川尻八幡宮（春日神社）・・・明観寺・・・
塚・・・良円山弁財天・・・古道を歩いて小松へ・・・城山公民館>

集合：城山公民館（緑区久保沢2-26-1）受付8:30～

定員：20名（先着順）参加費：無料 申込み期間：9/18～10/22

受付・問合せ：城山公民館 TEL042-783-8194

※月曜および祝日の翌日を除いた午前9時～午後5時

主催：城山公民館 主管：城山エコミュージアム委員会



（良円山弁財天）



答え：③

この石灯籠は川尻八幡宮の二の鳥居の前にあります。

台座正面の「伊勢屋」は屋号で、小松で酒・日用雑貨・呉服などの商
いをしていた廣田善兵衛が文久2年（1862）に献灯したものです。作者
は「信州高遠石工 北原七兵衛祥重」で、大正寺（谷ヶ原）の百体地
蔵や久保沢観音堂の百体観音のうちの33体を製作した記録があります。なお、伊勢屋廣田善兵衛は、文化元年（1804）に町屋の有山平四郎
など地元の有志4～5名と共に讃岐の金比羅宮に参詣し、本沢の龍籠山
に金刀比羅宮を勧請した人と伝わり、この道中の道案内をしたのも善
兵衛で8月に出発し10月に帰ったが、村人が箱根まで出迎えに行ったと
いう話が伝わっています。

（金子 直美）



台座の文字

参考文献：『城山町史6 通史編近世』
『久保沢宿の石像佛を訪ねて～百体地蔵を中心に～』

村田公男 講演資料

◆城山エコミュージアム委員会では常時委員を募集しています。毎月第1水曜日の定例会の
見学ができます。公民館へお声がけください。

編集後記

30年ほど前の城山は、色々なト
ンボがそれも沢山飛ぶ所だなあと
思いました。最近の種類も数も
減ったようですが、穴川を歩いて
トンボたちを見るとホッとします。
昔の写真と比較するとずいぶんと
変わってきていますが、城山の誇
れる里山を紹介しました。

（田畑 房枝）

企画/作成：

相模原市立城山公民館 城山エコミュージアム委員会

発行：相模原市立城山公民館

TEL：042-783-8194【直通】

FAX：042-783-1721

城山公民館ホームページQRコード



ホームページをパソコンで見るとは

相模原市 城山エコミュージアム

検索